



Title	中国における農村金融とマイクロファイナンス
Author(s)	姚, 磊
Citation	(2012-08-08)
Issue Date	2012-08-08
URL	http://hdl.handle.net/10069/29697
Right	

This document is downloaded at: 2019-01-23T01:23:37Z

論文内容の要旨

専攻名	経営意思決定 専攻	氏名	姚 磊
題名	中国における農村金融とマイクロファイナンス		
<p>論文内容の要旨：</p> <p>マイクロファイナンス（以下 MF）は途上国の開発政策や官・民諸団体による貧困削減の活動の一環として登場し、変遷してきたものであると認識されてきたが、その過程で同時に、従来の貧困政策の観点からだけでなく、金融政策や制度として見直されるようになった。</p> <p>貯蓄と融資という基本的サービスを継続的に提供する持続的制度の確立という方向への模索によって、MF の商業化および既存の金融システムへの一体化は主流となった。</p> <p>商業化と金融セクターへの統合は MF 業界の急成長と拡大の「原動力」と言われ、世界銀行をはじめ、アジア開発銀行、CGAP、その他多くのドナー機関も、MF の商業化を後押ししている。</p> <p>しかし、2010 年にインドで起こった MF の返済者が借金苦を理由に凶った自殺事件をめぐって、業界では再び貧困削減の社会的な理念と商業化という利益の追求をどのようにバランスを取っていくべきかというマイクロファイナンス機関（以下 MFIs）の基本スタンスに関する問題が喚起された。MFIs として営利目的の民間部門が急伸していることはマーケットの深化という点では望ましいが、インドの例に顕著のように多くの投資者による MFIs の乱立や、利益至上主義の氾濫、返済メカニズムの形骸化、情報の共有や信用審査の不備などの現象を止めなければ、かつて日本のサラ金にまつわる悲劇と似た副作用を生み出している。営利性がもたらす効率と、非営利性がもたらす貧困削減アプローチとのバランスを内包した組織としての確立を目指すことが今後の MF の役割強化にとって重要になるであろう。</p> <p>本稿は上述した理論を念頭におきながら、中国農村部における MF の展開経緯を整理した上、その意義を評価し、中国型 MF の特徴および課題を分析するものである。</p> <p>論文は以下のように構成される。</p> <p>冒頭に問題意識が説明されたのち、第1章においてMFに関する基本的な説明が与えられる。ここでは、MFの成長経緯について整理し、特に先進国におけるMFの展開を論じた。先進国ならの特徴をまとめてみたが、貧困問題解決という社会的使命、MF業界における NGO の役割、また業界全体の商業化への流れという三点は途上国と共通していることは明</p>			

氏名	姚磊
<p>らかにした。さらにMFの商業化に関して、その急激な進展の背景を整理したうえで、インドなど多数の国・地域で発生した多重債務の問題について分析し、商業化にめぐる議論を整理した。MFの社会的理念の重要性を最認識した上で、定説的なMFの定義には修正が必要とし、MFの4つの要素を抽出することができた。</p> <p>第2章では中国農村金融におけるMFの展開経緯を整理し、中国型MFの定義を与え、その特徴と問題点を抽出した。中国では1980年代後半以降、国際開発機関やNGOによってMFの手法を導入したが、グループ融資が十分機能せず、他の途上国と比べてアウトリーチは狭く、持続可能性も低いなどの問題点が指摘されている。とはいえ、21世紀に入り、農村金融改革の進行とともに、政府の政策推進により、農村信用社をはじめ、フォーマル金融機関は次々とMF手法を導入した。また、新型農村金融機関や小額貸出公司などのMFを特化した組織が設立され、農家や中小・零細企業の資金需要に応える小額貸出制度は整備され始めてきている。</p> <p>政府の強力な介入によってMFの普及は早く達成したが、国の推進で、金融機関の発意ではないこととNGOの段階を経由しなかったことは大きな欠陥であると言わざるを得ない。貧困問題の離れ、適切な金融商品開発、インセンティブの欠如など様々な問題を残っている中、MFIsは需要者側のニーズに十分マッチできるかどうか、第3章と第4章では、現地調査の結果をまとめた。</p> <p>第3章の小額貸出公司是新たな準金融組織でありながら、効率的に零細・中小企業に対して融資を行い、民間資本を導入してマイクロファイナンス市場の拡大に貢献していることが分かった。マイクロファイナンスの手法は馴染んでいないことや、貧困層、低収入層に離れていること、資金調達困難などの問題点も明らかにした。</p> <p>これに対して、第4章のNGO楽施会は貧困層に融資を届くためスキームを工夫し、持続的な成長を達成した。また、フォーマル金融機関（農村信用社）との連携も実現し、貧困層の資金需要とフォーマル金融機関の架け橋として重要な役割を果たしていることが分かった。</p> <p>結論：</p> <p>小額貸出公司やNGOは中国におけるマイクロファイナンス業界では小さなシェアしか占めていないが、世界の潮流からみると、MFの商業化はNGOや民間セクターに主導されているのが事実である。全体として商業化が進んでいる中国のMFには、NGOをはじめ、民間セクターの潜在力をもっと生かし、そして、フォーマル金融機関が求める商業化の要請を両立させるスキームを構築すべきであると思われる。そのための法制度の整備が急務であろう。</p>	